

さいわい通信

第12号

2025年12月1日
(株)さいわい企画
編集 クリスチャン・
セレモニークラブ
(C・C・C)事務局
052-893-732

今号では、お父様の告別式にむけて、お父様の人生のお証しと、娘としてのご自身の思いを綴られ、素敵な冊子を作成されたご遺族のお許しを頂き、その一部を紙面にてご紹介させていただきます。(紙面の都合上、一部編集・再構成しております)

故服部平和様

ご長女 安藤真美様

活けるキリスト一教会

父の人生

父の一番の口癖は「誰の為に、何の為に」でした。

服部平和(へいわ)の誕

み言葉を味わう⑪

詩篇 90篇9節12節

9 私たちのすべての日はあなたの激しい怒りの中に消え去り私たちは自分の齢を一息のように終わらせ

ます。
10 私たちの齢は七十年。健やかであつても八十年。そのほとんどは労苦とわ

ざわいです。瞬く間に時は過ぎ私たちは飛び去りま

す。
11 だが御怒りの力をあなたの激しい怒りの力を知っているでしょう。ふさわしい恐れを持つほどに。12 どうか教えてください。自分の目を数えることを。そして私たちに知恵の心を下さってください。

これはモーセの祈りです。人生は息のようにはかないもので、しかもそのほとんどは労苦とわざわいです。苦難が多く、あつと言う間に終わってしまう人生の恐怖を乗り越える知恵はなん

でしょうか。
モーセは神の神御怒りをふさわしく恐れることが大切だと言っています。死は罪の結果であり、人は神の御怒りの下にあるのです。神から離れた人の肉体は死

一麦ゴスペルチャーチ
牧師 山下義道

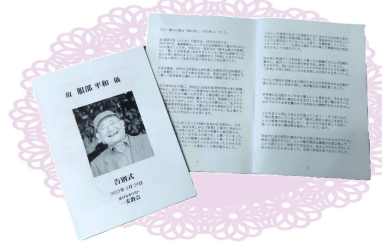
その名に相応しい生き方を追い求めるような生涯でした。

◇

大学卒業後、母校の日本福祉大学付属立花高校の社会科教師として教鞭をとり、わずか数年を除けば、現役引退する七三歳まで一貫して私学教育に携わってきた職業人生でした。

(中略)

現役も残すところ一年となつた七三歳の年始の近況報告に、「これまで私は、自分の楽しみは『罪悪』と勝手に決め込んで生きてきたきらいがあります。今そ



告別式に合わせて用意された冊子

た第二の青春を全力疾走するかのような毎日でした。

◇

住み良い地域づくりを目標して幾つもの組織を立ち上げ、役職を兼任していった。中でも特に力を入れたのが平和を呼びかける活動で、「平和」の名に相応しい父の生き様には圧倒される思いでした。

(中略)

父はクリスチャンではありませんでした。父自身が語ったことではありませんが、偉大な牧師の息子として、過大な責務を負いながら、

たくさん悲しみと傷みを負ったのではないかと想像しています。父はキリストの教えではなく、教育と政治に活路を見出し、それでも「戦争は最大の罪悪」と

いう祖父の強い思いは全て引き継いで生きてきたと思います。

娘として

私が幼い頃は、まるで宗教を忌むような振る舞いを見せていた父でしたが、人生の終盤に立ち、日曜礼拝に足を運ぶようになり、讃美歌を歌う機会を探しては歌うようになりました。いざ

れ父は洗礼を受け、天に召されたいのだろう...と感じていました。

コロナ禍であつた二〇二一年、自宅階段から転落し、生死を彷徨う父との面会は一切許されませんでした。枕元に置いた携帯が鳴るたびに口から心臓が吐き出されそうなるほど怯え苦しみま

した。このまま父を奪われ

るのか、神様なんて本当にいるのか...

(中略)

絶望してしまひそうだった時に、讃美歌「慈しみ深き」と再会し、父を癒すつもりが、私自身が深く深く癒されました。その時から私は、どのような時も神様は愛してくださるのだと信じるようになりました。

そして、父を求めるのではなく、「平和」という名を背負って生きてきた父が安らかに天に召されることこそが「平和」そのものなん

じゃないだろうか...娘として父を幸せにしたいのではなく、神の子として生きてきた父を無事天へと還す役割を担おう...と思うようになりまし

た。時には苦しむ夜もありましたが、そのたびに讃美歌を歌い、心を慰め、この日を迎えることが叶いました。

(中略)

こうして信じて迎えることのできた今日という日が、私や、私の家族のためだけでなく、ここに集ってくださった方々や、ここにおられないけれど共に生きる全ての方々の幸せを祈る機会として少しでもお力になれますように、心から神様にお祈り申し上げます。



多方面からのお花で礼拝堂はいっぱいに

葬儀もWEBの時代!?

八月より、新たに「@葬儀 (アットそづき)」というシステムを導入しました。
WEB上で、葬儀に関するあれこれが行えるシステムです。

特徴その1

訃報をLINEやショートメールなど日常で使いの連絡手段で送ることができます。

☆多方面へ連絡を取らなくてはならないのになかなか電話が繋がらない...同じ連絡内容を毎回イチから伝えなくてはならない...等といったストレスから解消されます。

☆葬儀までの限られた時間に、事務的な事柄ばかりではなく、故人様とのお別れにより多くの時間を使っていたことができそうです。

特徴その2

WEB上に遺影写真や、思い出の写真、葬儀礼拝の様子、動画を載せることができる「オンライン式場」ペー

ジを作成できます。

☆日程やお住

まいが遠方な

の都合で参列

できない方も、

葬儀の様子を

見たり、遺族

のためにメ

ッセージを送

つたりするこ

とができます。

☆あとで葬儀

礼拝での牧師

説教を見返

したり、親

戚や教会員

に共有した

りして、故

人の人生

の証し・神

様の恵みを

分かち合

うことができ

ます。

訃報画面イメージ



葬儀セミナー

レポート

碧南教会
2025. 7. 13

去る七月十三日、日本キリスト教団碧南教会にて、修養会の一環としてキリスト教終活セミナーを開催。

礼拝をともにした後、軽食をしながらの和やかな雰囲気の中で、キリスト教葬儀は「神礼拝」であることを確認しながら私たちクリスチャンが大切にすべき終活のポイント等を学び合いました。質疑応答で生前葬についてキリスト教的にふさわしいかどうか

か、エンディングノートをつまぐ活用しよう等、一時間という短い時間の中でも有意義な時を過ごしました。(杉浦)



青く大きな十字架のスタンドグラスが印象的な礼拝堂(2024年12月撮影)

特徴その3

お花料や生花(供花)の受付、返礼品の手配がWEB上で行えます。

☆葬儀を終えた後で、家の片

づけや役所の手続きもあるなか、

住所録を作り、それぞれの金額

に応じた返礼品を選ぶ大変さか

ら解放されます。

☆家族葬を執り行った場合で

も、葬儀後にお世話になった方々

へは連絡をされることでしょう。

そうして訃報を受け取られた方

は何かしらお気持ちを示したい

もの。突然の弔問やお花料が届

き、都度対応することになるか

もしれません。

さいわい企画の@葬儀で用意

みんなの絵本

『ちいさなもののいのり』

文エリナー・ファージョン

絵エリザベス・オートン・ジョーンズ

訳島多代

発行所 新教出版社

—この絵本は第二次世界大戦が終結する年に米国の出版社から発行されました。ちいさなものの幼い子どもたちは日々の生活や社会に不安を感じる中で、神様におまもりくださいと祈る。それは深い安心感に繋がります。

また、この祈りは子どもたちに自分よりもっと小さなものたちがいることを気付かせてくれます。

—訳者あとがきより 一部抜粋



この絵本は物語ではなく、祈りそのものです。鳥のひな、小さな種、こひつじ、そして幼い子どもたちが、神様に守られ、健やかに成長することができるように祈っています。

この絵本、日本では二〇一〇年九月に発行されました。世の不安はいつも形を変えて私たちのそばにあります。その影響を現代のちいさなものたちも受けています。

神様、どうかお守りください。また私たち

大人がちいさなもの、

弱きもののために祈る

ことを忘れないよう助

けてください。(藤田



葬儀後に必要な各種手続き
不安や悩みがあっても当然です。
分からないことをひとつひとつ丁寧に分かりやすくご説明しながら解消します。

お気軽にお電話ください

0120-647-031

相談申込



ご相談は、葬儀から年月が経っていても、
さいわい企画を使っていなくても
大丈夫です！ぜひご活用ください！

@葬儀提携先 (株)さいわい企画
葬儀後のお手続き
まるわかりサービス

初回相談
無料

さいわい通信

第12号

2025年12月1日
(株)さいわい企画
編集 クリスチャン・
セシモニー・クラブ
(C・C・C)事務局
052-893-732

2026年カレンダー完成



2026 Calendar

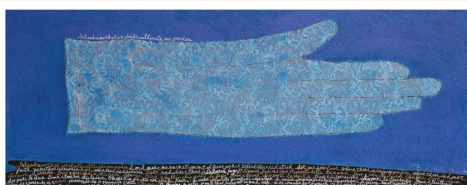
来年のカレンダーが完成しました。
毎年夏の暑さに苦しむ頃、次年カレンダーについて本格的に思案し始めるのですが、主はいつも備えていてくださるのです。これまでクリスチャンの写真家、作家の方に会わせてくださっていました。

◇

よく葬儀を依頼してくださる同

盟福音天白キリスト教会に大きな絵画が飾られています。今年、その作者の方からご葬儀のご依頼を頂いたのです。
このような葬儀社ならではの繋がりが、そして神様の御計画のうちに、クリスチャンの方の作品で二〇二六年のカレンダーをお作りすることができました。作者であり芸術家の西村正幸さんにお証しをお寄せいただきましたので、ご紹介します。

「先の事どもを思い出す。昔の事どもを考える。な。見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」
（イザヤ書43章18節19節）
一九八六年末、結婚して半年ほど経った時に、大阪在住の私たち夫婦に一九八七年の指標聖句として与えられたことばでしたが、何を意味するのかわからないまま時が過ぎ、主である神様の備えられた計画が、誰も知った人のいない名古屋での新たな仕事为主によって備えられていたことだとわかったのが、その年の10月中旬のことでした。しかしなかなか採用が決まらず年が明け、妻も私も次年度の仕事の契約を断らざるを得ない状況のまま待つことになりました。



消えた子どもの日記(#5);庭を耕す
The diary of a child who disappeared(#5);cultivate our garden

その間、一九八八年の年初の指標聖句として、「主は絶えず、あなたを導いて、焼けつく土地でも、あなたの思いを満たし、あなたの骨を強くする。あなたは、潤された園のようになり、水のかねない源のようになる。」（イザヤ書58章11節）とのみことばが与えられました。またもや何を意味するのかわからないことばでしたが、その意味は名古屋に引越してきてわかりました。名古屋がとも書い（いつ）とを…主のユーモアに元気づけられました。

荒野に道を、
荒地に川を設ける主

西村正幸

こうして焼けつく暑さの名古屋に拠点を移し、ドイツ人宣教師が開拓する教会のメンバーとなり、信仰の父母と尊敬する宣教師夫妻の元、信仰が培われ、作品でイエス・キリストによる平和と愛を証しする制作を今日まで継続することができました。

作者プロフィール

西村正幸

一九五七年奈良県生まれ。
一九七六年八尾福音自由教会（現グレース宣教会）で洗礼を受ける。
一九八八～二〇一八年名古屋芸術大学美術学部教授
二〇二〇～二〇二三年京都精華大学デザイン学部教授

「アートで平和をつくる」ことを信条に個展、グループ展を多数開催。現在JFCAいすみの家聖書教会 教会員。名古屋在住。



消えた子どもの日記(#12);庭を耕す
The diary of a child who disappeared(#12);cultivate our garden

編集後記

(杉)

◆今年もあつという間に終わってしまいました。何ができたかと考えてしまいがちですが、何を成し遂げたかではなく、何を神に捧げたかが私という作品を完成させると、ある先生が教えてくれました。神に視点を定めていたものです。（山）
◆十月、二〇二五年カレンダーへ作品提供いただいた故大野弘美様の個展へ行ってきました。美しい作品、可愛い作品の数々に心を打たれました。（藤）

祈りあい、支えあい

クリスチャン・セシモニー・クラブ

(C・C・C)

特典①さいわい企画での葬儀料金が5%割引

特典②各種生前予約割引キャンペーンあり

特典③生前相談・生前見直し、何度でも無料

(ご自宅出張もOK)

特典④オリジナルエンディングノート贈呈

特典⑤キリスト教葬儀関連情報誌

「さいわい通信」(本誌)のお届け

特典⑥打合せ時、高級レザー調ファイル贈呈

特典⑦打合せ時、み言葉入りボールペン贈呈

さいわい企画
ホームページはこちら

